

# 剣道時代

KENDOJIDAI  
1986

2



特集

古流に学ぶ

北辰一刀流の  
技と理合

第2回若潮杯争奪武道大会

新春インタビュー

全日本剣道連盟大島功会長

定価 650円  
体育出版

# 好調東海大相模、黒潮旗に続き優勝

昭和60年12月27日(金)★国際武道大学★(財)日本武道館・国際武道大学主催

## 代表戦で西大寺を降す

前回、国際武道大学開学記念兼日本武道館開館20周年記念として行われた本大会。今回から名称が若潮杯争奪武道大会剣道競技に改められた。

参加16校は60年度インターハイ優勝の国士館、2位・高千穂、3位・三養基などの全国の精鋭校揃い。そして

そこを勝ち抜いて見事、栄冠を獲得したのが、黒潮旗(60年10月)を制した東海大相模。黒潮旗では持ち味の速攻が冴えた相模だったが、この若潮杯では接戦を確実にものにするという一味違った戦いぶりをみせた。決勝でも西大寺を代表戦の末に降し、初優勝を成し遂げた。

### 予選リーグ

↓大将戦・児玉(相模)②下 秋山(三養基)相模の2①②で迎えた大将戦、児玉は秋山が居ついたところを相手の竹刀を払いつつメンに乗った写真・左。さらに児玉は二本目開始直後、ドブを決めた。

↑大将戦・笹原(国士館)②山城(興南)遠来組の興南が60年度インターハイ優勝校、国士館を破る番狂せを演じた。興南が2③2④と半歩リードした形で迎えた大将決戦、上段に構える山城はツグツグと威嚇し、笹原が一調ひるんだところ(ヘメンの一撃(写真)も)。このあとコテを奪ってドドメを制した。



●国士館 興南



●東海大相模 三養基



●東海大甲府 西大寺

長狹を除く3校の争いとみられた。まず三養基が2勝1敗の成績で予選リーグを終了。最終試合で2勝の相模と1勝1敗の新田が激突した。新田も勝つてトーナメント進出のチャンスがあったが、相模の粘りに引き分け、結局、相模と三養基がトーナメントにコマを進めた。

Cブロック—安房(千葉)、国士館(東京)、一条(奈良)、興南(沖縄)トーナメント進出は堅いと思われていた国士館が予選落ちのうきまにあつた。緒戦は安房を5-0とつし好調な出足のみせた国士館だったが、降し興南に1-3で惜敗。だが、その興南が安房と引き分けて1勝1敗に終わったため、国士館は残る一条戦に勝てばトーナメント進出への道が開けたが、一条を捕らえる

大将戦・原(甲府)——②(平松(西大寺))緒戦で難敵清風を4-0という予想外の大差で降した西大寺。この試合では甲府の善戦にあい勝負で大將決戦に持ち込まれたが、大将・平松が冷静な読みでコテを二本連取し、順当に勝利を収めた(写真は一本目の出コテ)。

試合は、参加16校を4つのブロックに分けて予選リーグが行われた。各ブロックの上位2校が決勝トーナメントに進出する。

Aブロック—秋田(秋田)、東海大甲府(山梨)、清風(大阪)、西大寺(岡山)。

西大寺が緒戦でライバルとみられた清風を4-0で撃破し、その後も順調に白星を重ねて3戦3勝で予選をクリア。残り一つの座を巡って東海大甲府と清風が争い、清風が大将戦で突き放した。

Bブロック—長狹(千葉)、東海大相模(神奈川)、新田(愛媛)、三養基(佐賀)。

●1回戦 清風—高千穂



大将・平子は重黒木の猛攻をよくしのいだ

次鋒戦・松村(清風) ① 進軍(高千穂)  
先鋒戦引き分けの後、この次鋒戦は松村が開始早々、打ち合いの中で進軍の手元が華がったところを見送さず、コテを痛打。そのまま松村の一本勝ち。さらに清風は中堅・高橋も一本勝ちを収めて、断崖絶壁に立つ。副将戦は失ったが、大将・平子が踏ん張って高千穂の2連勝を阻んだ



●1回戦 一条—赤穂

①中堅戦・濱田(一条) ② 寺脇(赤穂) / 一条が先鋒、次鋒戦をものにして勝負あったかと思われた。が、赤穂はこの中堅戦で寺脇が中盤に跳び込みメンを奪い(写真)、一本勝ち。これで流れが変わった。つづき副将戦も赤穂は、メンを取られた版口が終了間際、メンを返し引き分けに持ち込んで大将戦へとつないだ

②大将戦・中村(優)(一条) ③ 吉広(赤穂)。引き分けなら一条の勝ちだ。互いに積極的な技を出しあい自然した攻防を展開。相譲らず引き分け寸前に、吉広が中村(優)のメンを返してドウに应じる起死回生の一打(写真)を決めて、代表戦に持ち込んだ。その吉広、代表戦にも登場し、安田からコテを奪って準決勝進出の立役者となった



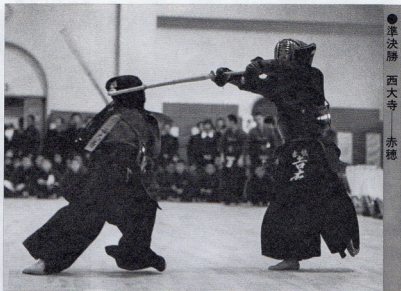
ことが出来ず0-2で敗れ、奥南にとつて変わられた。  
Dブロック・新潟商(新潟)、土浦日大(茨城)、赤穂(兵庫)、高千穂(宮崎)  
前回の覇者、高千穂は赤穂、土浦日大を連破。トーナメント進出は不動のものと思われたが、最後に来て新潟商に1-3で苦杯を喫した。それにより高千穂、赤穂、新潟商の3校が2勝1敗で並んだ。その結果、総取得本数が優った高千穂と赤穂が勝ち残ることとなった。  
予選から熾烈な戦いが繰り広げられたが、決勝トーナメントに入ると尚一層熱のこもった戦いとなった。  
そんな中で高千穂が清風の粘りの前に調子の波に乗れず、前半を0-2で折り返し、後半追いあげたものの、あと一歩及ばず1回戦で姿を消してしまっ

また、残る3試合も最後まで予断を許さない白熱したものとなり、西大寺が三善基を、相模が奥南と共に本数勝ちで降し、赤穂が一条を代表戦で倒した。  
準決勝。清風・相模の対戦は、相模が先鋒、次鋒と連勝して優位に立つ。清風も中堅戦を奪い反撃体制を整えようとするが、副将戦で相模・米山が素早に足捌きで高勝を翻弄し、メンと持ち前の速攻をみせた試合だった。  
一方の西大寺、赤穂の準決勝は、先鋒を西大寺、次鋒も赤穂の華いあった後の中堅戦で、西大寺・松本がメンの一本勝ちを取られ、西大寺が再びリードする。副将戦は引き分け、勝敗の行方は西大寺・平松・赤穂・吉広の大将決戦へと持ち越された。この勝負、吉広が退きドウで先制したが、終盤、場外反則などにより平松に一本献上。これで平松が息を吹き返し、気落ちした吉広にコテを決めた。  
西大寺・相模の決勝戦。先鋒戦、西大寺の古澤が反則とメンで丹羽にストリート勝ち。しかし相模も次鋒・大塚が尾崎をメンとコテで降し、すかさず追いつく。中堅、副将戦は共に相譲らず引き分け。こうして迎えた西大寺・平松・相模・見玉の優勝を賭けた大将決戦は、両者優勝を意識してなかなか思い切りのよい技が出ず、緊迫した鏖争が続いて、結局引き分け、代表戦に持ち込まれた。  
この試合は大将戦の再現となる。この試合も大将戦と同様の展開となつて場内は水をうったようにシーンと静まりかえる。そして延長2回目、ついに決着がついた。主審の岡先生が積極的な技を出すようにと注意したあとの構え直しの後、見玉が捨身のメンに跳び込んで、チームを優勝へと導いた。



副将戦・斉藤(清風) — ②ド米山(相模) / この同校、黒潮旗では優勝を争った。そのときは相模が勝っている。先鋒、次鋒戦と相模が奪い、この前と同様の展開をみせる。中堅戦は清風の高橋が二本勝ちし、反撃ムードを盛り上げた。が、相模はこの副将戦で米山が黒潮旗では負けた斉藤に雪辱して、

勝利を決定づけた。鈴せりあいからの退きメンで先制した米山は、なおも攻撃の手を緩めることなく攻め込んで、斉藤がライン際で居ついてフツと手元を挙げた瞬間、鮮やかな逆ドゥ一本(写真)



大将戦・平松(西大寺)反コ ① 吉広(赤穂)／西大寺が2②①  
 ①と一歩リードした形で迎えた大将戦は、吉広が鋭せりあいからの  
 退きドワで先手を取る。このまま行けば代表戦となることだったが、  
 が、終盤、吉広は場外反則などを犯して反則による一本を平松に与  
 えてしまった。併せずして追いついた平松は、氣落ちする吉広の中  
 心を割って入り手元を挙げさせ、コテに掛いた(写真)

●決勝 西大寺 東海大相模

次鋒戦・尾崎(西大寺) — ②コ大塚(相模)／先鋒戦を落とした相模だが、次鋒・大塚ですぐに追い付いた。序盤、お互いにコテを打ち、尾崎はそれで立ち止まったが、大塚はすぐさまメンに跳び込んで先制。数合後、さらに大塚は出ゴテを奪った

東海大相模高・木田誠一監督談  
 「予選を勝ち抜けばある程度はいくとも思いましたが……、よくやってくれました。徐々にチームワークが固りつつあるなど感じられますね。これからは精神的な強さと各人の置かれてあるポジションがどういう立場にあるかを、認識させていきたいです」  
 西大寺高・桜間達雄監督談  
 「もう少しいい技で決まってくれればね。あれだけ選手が一所懸命やっていたら……、うちの今のチーム状態からすれば上出来と言えるでしょうね。でも、一昨日の練習試合では勝っているんだがなあ、まだ心身ともに未熟なんですよ」

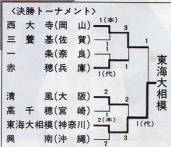


3位・赤穂高

決勝	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	総得点	代表戦
西大寺	吉澤	尾崎	鈴木	笠井	平松	1	平松
赤穂	吉広	コ	コ	コ	コ	3	
東海大相模	丹羽	大塚	仲島	米山	元三	1	元三



3位・清風高



"栄冠射止めた"

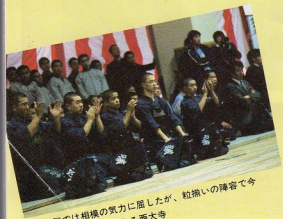
# 相模・児玉の気力のメン



## ●決勝 西大寺——東海大相模

代表戦・平松(西大寺)——児玉(相模) / 代表戦は4分一本勝負。西大寺は平松、一方の相模は児玉と、両チーム大将を送り出してきた。大将戦ではお互いに相譲らず引き分け、文字通り雌雄を賭けた一戦となる。優勝という2文字、そして一本勝負のためか、共に思い切りのよい技が出ず鏝せり合いからの駆け引きとなったが、決め手を欠いて延長戦にもつれ込んだ。延長に入ると

なお一層、両選手の動きが消極的となり、小手先の技を出しては鏝せり合いという展開が繰り返される。再延長に入っても変わらず、主審の岡先生がもっと積極的に技を出すように注意しての構え直しの後、児玉が気力を振り絞ってのメンに跳ぶと(写真)、副審2人の白旗がサッと挙がり、相模の初優勝が決まった。平松も喉嚨に面返しドウに応じたが、児玉の氣勢に押されてしまったようだ



決勝では相模の気力に屈したが、粒揃いの陣容で今後の活躍が期待される西大寺



新メンバーとなってから、黒潮旗、若潮杯と立てつづけに制覇した東海大相模。全国大会への大きな自信となっただろう